令和3年度　土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール
小学校作文の部　宮城県優良賞
ホライゾン学園仙台小学校　6年　島田　季歩

自分の生命に責任を

ホライゾン学園仙台小学校六年　島田　季歩

「怖い、恐ろしい……。」

繰り返し流れるニュースの映像を見てそう思ったのは、私だけではないだろう。七月三日に神奈川県熱海市で土砂災害が発生した。見回りしていた消防団の方が急いで避難している。土石流が山の上からものすごい勢いで滑り降りてくる。あっという間に「ゴーッ。」と、音を立てながら土砂が家や道路をのみこんでいった。私は、土石流の威力に驚くと同時にとてつもない恐怖を感じた。

土砂災害に対して、私たちはいったいどのように備えれば良いのだろうか。

今回の熱海市の土砂災害を機に、家族でハザードマップを確認してみることにした。国土交通省のホームページにある「重ねるハザードマップ」は色々な災害リスクを地図上に重ねて表示でき、とても分かりやすかった。たくさんの人に教えて、自分の行動範囲の確

認をしてみてもらいたいと思った。

「どうせ変わっていないだろう。」と思いながら、私は家の周辺のハザードマップを見た。すると以前と変化した場所を発見し、私は驚いた。近所で山を崩し、土地の造成工事が始まった場所がある。そこが非常に危険な地域に変わっていた。同じ場所にずっと住んでいたとしても、周りの土地で変化が起きていることもある。ハザードマップは一度見たからといって安心してはいけないのだと感じた。

3

定期的にハザードマップを確認することは、とても大切なことなのだ。

近所に住む祖父母に、今回見つけたハザードマップの危険な場所を教えてあげた。祖父が「ここは心配しなくて大丈夫な所だよ。」と言ったのを聞いた私は、はっと気がついた。祖父はインターネットで情報を得る習慣が無い。だから私たち若い世代には、祖父母のような高齢の人たちに新しい情報を得たら伝えてあげる心遣いが必要なのだ。

4

災害が起こると「今までこの土地では起きたことがなかった」「たのに」と話す人がたくさんいる。経験したことがないからみんな災害を想像できないのは当然のことだと思う。

では、豪雨になり土砂災害の危険が自分の身に迫ってきたらどうすれば良いのだろう。

それは警報が出たら「迷わず避難する」ことなのだと思う。けれども「避難所で過ごすのは疲れるから嫌だ」と考える人は多いようだ。私も自分が迷わずに避難できるか、正直

に言うと自信がない。一晩だから「大丈夫だろう」とか「避難するのは面倒だ」と思ってしまうかもしれない。

土砂災害の危険が迫った時、みんなが「何が起きるか分からないから、念のため早めに避難しておこう」という発想を持てば、大切な生命を落とさずに済むに違いない。私は自分だけではなく、近所の人にも積極的に「避難しましょう」と声を掛けられるようになりたいと思う。

私の住む宮城県では、東日本大震災の経験を「語り部」として伝えてくれるボランティアの方がたくさんいる。私には震災の記憶はない。しかし「語り部」の方のお話や震災を経験した周囲の人たちからお話を聞く機会がある度に思う。もし私が死んでしまったら、祖父母や親や友人は悲しむに違いない。私も自分の周りの大切な人がいなくなってしまうことを想像するだけで胸が苦しくなる。

私は、災害で大切な人を失い、悲しむ人が

無くなるように心から思う。そのために突然訪れる災害に正しく行動できるよう、日頃から心に留めて生活したい。